

#3

## IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

JC997 U.S. PRO  
09/05/05 066683  
05/30/01



Applicant: IIDA, Shoichi

Application No.:

Group:

Filed: May 30, 2001

Examiner:

For: METHOD FOR TRANSMITTING/RECEIVING TEXT DATA IN PORTABLE TERMINAL

L E T T E R

Honorable Commissioner of Patents  
and Trademarks  
Washington, D.C. 20231

May 30, 2001  
3377-0117P

Sir:

Under the provisions of 35 USC 119 and 37 CFR 1.55(a), the applicant hereby claims the right of priority based on the following application(s) :

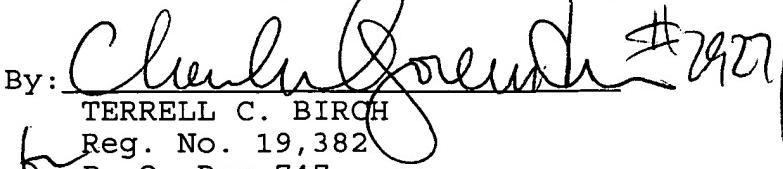
<u>Country</u>	<u>Application No.</u>	<u>Filed</u>
JAPAN	2000-162867	05/31/00

A certified copy of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

If necessary, the Commissioner is hereby authorized in this, concurrent, and future replies, to charge payment or credit any overpayment to Deposit Account No. 02-2448 for any additional fees required under 37 C.F.R. 1.16 or under 37 C.F.R. 1.17; particularly, extension of time fees.

Respectfully submitted,

BIRCH, STEWART, KOLASCH & BIRCH, LLP

By:   
 TERRELL C. BIRCH  
 Reg. No. 19,382  
 P. O. Box 747  
 Falls Church, Virginia 22040-0747

Attachment  
(703) 205-8000  
/nv

IIDA, Shoichi  
May 30, 2001  
BSKB, LLP  
日本国特許庁(703)205-8000  
JAPAN PATENT OFFICE  
3377-0117P  
1 of 1

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて  
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed  
with this Office

出願年月日  
Date of Application:

2000年 5月31日

JC997 U.S. PRO  
09/866683  
05/30/01

出願番号  
Application Number:

特願2000-162867

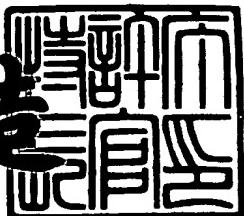
出願人  
Applicant(s):

ネットビレッジ株式会社

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

2001年 4月20日

及川耕造



出証番号 出証特2001-3032278

【書類名】 特許願  
【整理番号】 NV0002  
【あて先】 特許庁長官 殿  
【国際特許分類】 G06F 13/00  
【発明者】

【住所又は居所】 東京都八王子市南大沢2丁目27番 ネットビレッジ株式会社内

【氏名】 飯田 祥一

【特許出願人】

【識別番号】 500126833

【氏名又は名称】 ネットビレッジ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100102406

【弁理士】

【氏名又は名称】 黒田 健二

【選任した代理人】

【識別番号】 100100240

【弁理士】

【氏名又は名称】 松本 孝

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 074159

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 携帯端末におけるテキストデータの送受信方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 情報通信ネットワーク上の所定のサーバーより供給されるテキストデータを、前記情報通信ネットワーク上に設けられたゲートウェイサーバーを介して受信する携帯端末におけるテキストデータの受信方法であって、

前記所定のサーバーより供給される全テキストデータを、前記ゲートウェイサーバーに蓄積するステップと、

前記蓄積された全テキストデータを、前記携帯端末にて表示可能な文字数にて分割し、ページ分割するステップと、

前記テキストデータを、前記ページ分割された文字数を単位として、前記携帯端末に出力するステップと、

を含むことを特徴とする携帯端末におけるテキストデータの受信方法。

【請求項2】 前記ゲートウェイサーバーは、前記携帯端末からの指示により、ページのスクロールを行い、該当するページを前記携帯端末に対して出力することを特徴とする請求項1に記載の携帯端末におけるテキストデータの受信方法。

【請求項3】 携帯端末から、情報通信ネットワーク上の所定のサーバーに対して供給されるテキストデータを、前記情報通信ネットワーク上に設けられたゲートウェイサーバーを介して送信する携帯端末におけるテキストデータの送信方法であって、

携帯端末上のWEBブラウザに複数のテキスト入力BOXを設け、該複数のテキスト入力BOXに順次にテキストデータを書き込むステップと、

全てのテキストデータの書き込みが終了した際、最も古い文章が入力されているテキスト入力ボックスから順次に、該テキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、前記ゲートウェイサーバーに出力するステップと、

前記テキスト入力ボックスから順次に読み出された文章を、古い文章から順に並べ、一つながりのテキストデータとして、前記所定のサーバーに対して出力するステップと、

を含むことを特徴とする携帯端末におけるテキストデータの送信方法。

【請求項4】 前記複数のテキスト入力BOXへの書き込み文字数が、前記携帯端末から送信可能な文字数の制限範囲を超えてしまった場合、前記携帯端末上のWEBブラウザは、最も古い文章が入力されているテキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、前記ゲートウェイサーバーに出力し、継続して書き込まれた文章を、前記文章が読み出されて空の状態となったテキスト入力ボックスに書き込み、以降、全テキストデータの書き込みが終了するまで、前記処理を繰り返すことを特徴とする請求項3に記載の携帯端末におけるテキストデータの送信方法。

【請求項5】 前記請求項1または2に記載の携帯端末におけるテキストデータの受信方法と、

前記請求項3または4に記載の携帯端末におけるテキストデータの送信方法と

を含むことを特徴とする携帯端末におけるテキストデータの送受信方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、携帯端末におけるテキストデータの送受信方法に係り、特に携帯端末から公衆回線網または専用回線等で構成されるインターネット等の情報通信ネットワークを介して送受信されるテキストデータを、その文字数に関係無く無制限に送受信する事を可能とする携帯端末におけるテキストデータの送受信方法に関する。

【0002】

【従来の技術】

近年、インターネット等の情報通信ネットワークの発展により、該情報通信ネットワークにアクセス可能な通信機能を有するパーソナルコンピュータ等の情報処理装置からのインターネット利用が増加している。また、近年急速な普及段階にある携帯電話やPHS等の携帯端末の中には、これらインターネットアクセスが可能な機能を有するものも現れてきており、これら携帯端末を用いた、イン

一ネット利用によるテキストデータの送受信が、頻繁に行われている。

#### 【0003】

以降、従来の携帯端末におけるインターネット利用によるテキストデータの送受信方法について、携帯端末における電子メールの送受信を例に説明を行う。

図8は従来における電子メール本文データ受信時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。また、図9は従来における電子メール本文データ送信時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

#### 【0004】

図8に示す如くに、メッセージデータ（テキストデータ）受信時において、従来の携帯端末では、一般に、各携帯端末毎に設けられた受信メッセージデータ記憶用のメモリサイズに制限があり、このため、受信可能なメッセージデータサイズにも制限が生じていた。このため、メッセージデータ受信時に、制限を越えたメッセージを受信すると、エラーになったり、途中で文章が切れてしまったりするなどの問題があった。

#### 【0005】

また、図9に示す如くに、メッセージデータ（テキストデータ）送信時において、従来の携帯端末（インターネットアクセス可能な携帯端末）では、搭載しているWEBブラウザの文字入力BOXの制限により、メッセージデータの最大入力文字数に制限があり、携帯端末で電子メールの本文を入力して送信する場合に、所定の文字数（現行発売されている端末では一般に最大で250文字程度）以上の入力をすることことができなかった。そのため送信できるメッセージサイズが制限されるなどの問題があった。

#### 【0006】

##### 【発明が解決しようとする課題】

以上述べたように、携帯端末におけるテキストデータの送受信方法によると、メッセージデータ受信時において、長文メール（メッセージデータ）を受信した場合、携帯端末の受信データサイズ制限により文章の途中でデータが切れてしまって全文を受信することができないという問題があった。

#### 【0007】

また、メッセージデータ送信時において、携帯端末上でテキスト入力BOXに文字を入力する際に、携帯端末に搭載されているWEBブラウザの制限により、入力できる文字数に制限があったため、その文字数以上の本文を入力してメール（メッセージデータ）の送信を行うことができないという問題があった。

#### 【0008】

そこで、本発明の目的は、インターネットアクセス可能な携帯端末において、メッセージデータを文字数無制限に送受信可能とする携帯端末におけるテキストデータの送受信方法を提供することにある。

#### 【0009】

##### 【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、本発明の携帯端末におけるテキストデータの受信方法は、情報通信ネットワーク上の所定のサーバーより供給されるテキストデータを、前記情報通信ネットワーク上に設けられたゲートウェイサーバーを介して受信する携帯端末におけるテキストデータの受信方法であって、前記所定のサーバーより供給される全テキストデータを、前記ゲートウェイサーバーに蓄積するステップと、前記蓄積された全テキストデータを、前記携帯端末にて表示可能な文字数にて分割し、ページ分割するステップと、前記テキストデータを、前記ページ分割された文字数を単位として、前記携帯端末に出力するステップとを含むことを特徴とするものである。

#### 【0010】

また、本発明の携帯端末におけるテキストデータの受信方法は、前記ゲートウェイサーバーは、前記携帯端末からの指示により、ページのスクロールを行い、該当するページを前記携帯端末に対して出力することを特徴とする。

#### 【0011】

また、本発明の携帯端末におけるテキストデータの送信方法は、携帯端末から、情報通信ネットワーク上の所定のサーバーに対して供給されるテキストデータを、前記情報通信ネットワーク上に設けられたゲートウェイサーバーを介して送信する携帯端末におけるテキストデータの送信方法であって、携帯端末上のWEBブラウザに複数のテキスト入力BOXを設け、該複数のテキスト入力BOXに

順次にテキストデータを書き込むステップと、全てのテキストデータの書き込みが終了した際、最も古い文章が入力されているテキスト入力ボックスから順次に、該テキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、前記ゲートウェイサーバーに出力するステップと、前記テキスト入力ボックスから順次に読み出された文章を、古い文章から順に並べ、一つながりのテキストデータとして、前記所定のサーバーに対して出力するステップとを含むことを特徴とする。

#### 【0012】

また、本発明の携帯端末におけるテキストデータの送信方法は、前記複数のテキスト入力BOXへの書き込み文字数が、前記携帯端末から送信可能な文字数の制限範囲を超えてしまった場合、前記携帯端末上のWEBブラウザは、最も古い文章が入力されているテキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、前記ゲートウェイサーバーに出力し、継続して書き込まれた文章を、前記文章が読み出されて空の状態となったテキスト入力ボックスに書き込み、以降、全テキストデータの書き込みが終了するまで、前記処理を繰り返すことを特徴とする。

#### 【0013】

また、本発明の携帯端末におけるテキストデータの送受信方法は、前記携帯端末におけるテキストデータの受信方法と、前記携帯端末におけるテキストデータの送信方法とを含むことを特徴とする。

#### 【0014】

ここで、上記発明によれば、テキストデータ受信時にはゲートウェイサーバー側で、携帯端末の制限に合わせて送信文字数を調整し、全データをページング処理することで、端末側での受信文字数無制限を実現した。また、テキストデータを入力するためのテキスト入力BOXを複数用意することで、WEBブラウザにおける送信文字数無制限を可能にした。

#### 【0015】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明の好ましい実施の形態を、図面に基づき説明する。

#### 【0016】

図1及び図2は本発明の携帯端末におけるテキストデータの送受信方法を実現するためのシステム構成例を示したブロック図である。

図1はCompact HTML対応携帯端末から、ゲートウェイサーバーを介してユーザー認証が必要なPOPサーバーなどにアクセスをする場合におけるシステム構成の一例を示したものであって、図2はHDML/WML(XMLベース)に対応した携帯端末から、HDML/WML(XMLベース)に対応したゲートウェイサーバー及び一般(HTML対応)の携帯端末ゲートウェイサーバーを介してユーザー認証が必要なPOPサーバーなどにアクセスをする場合におけるシステム構成の一例を示したものである。

#### 【0017】

図1において、携帯端末1は、各種の情報をユーザーに対して視覚的に伝達するためのディスプレイ2と、インターネットを介して受信されるメッセージデータを記憶するメモリ9と、データを入力するための入力キー4とにより構成される。さらに、携帯端末1はインターネット5、ゲートウェイサーバー7、インターネット5を介して、POPサーバー8と接続されている。尚、図示していないが、携帯端末1とインターネット5とは、図示しない無線基地局及び該無線基地局に接続されたゲートウェイ等から構成される移動体通信網を介して接続されている。

#### 【0018】

一方、図2において、携帯端末1は、各種の情報をユーザーに対して視覚的に伝達するためのディスプレイ2と、データを入力するための入力キー4とにより構成される。さらに、携帯端末1はHDMLまたはWMLをHTMLにプロトコル変換等を行うHDML/WML対応ゲートウェイサーバー3、インターネット5、ゲートウェイサーバー7、インターネット5を介して、POPサーバー8と接続されている。尚、図1の場合と同様に、図示していないが、携帯端末1とHDML/WML対応ゲートウェイサーバー3とは、無線基地局等を含む移動体通信網を介して相互に接続されている。

#### 【0019】

次に、図3乃至図7を参照して本発明の携帯端末におけるテキストデータの送

受信方法（携帯端末上のWEBブラウザを利用した電子メールの送受信方法）について詳細に説明を行う。尚、以降の説明においては、図1にて説明したシステム、すなわち、Compact HTML対応携帯端末から、ゲートウェイサーバーを介してユーザー認証が必要なPOPサーバーなどにアクセスをする場合におけるシステムを例にとり、具体的な説明を行う。

#### 【0020】

先ず、図3及び図4を参照して、図1で示したシステムにおける携帯端末におけるテキストデータの受信方法について説明を行う。図3は携帯端末におけるテキストデータの受信処理の手順を示したフローチャートであり、図4は図1で示したシステムにおけるテキストデータの受信処理時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

#### 【0021】

ユーザーは、先ず、携帯端末1を操作し、ディスプレイ2に、図示しない受信電子メール一覧画面を表示し、所定の手段により、受信電子メール一覧画面の中から、所望の電子メールを選択する。これにより、携帯端末1からPOPサーバー8に対して、当該電子メールの受信（読み出し）要求が出力される（ステップS1）。POPサーバー8は、これに対し、指定された電子メール本文データをゲートウェイサーバー7に対して出力する。

#### 【0022】

電子メール本文データを受信したゲートウェイサーバー7は、電子メール本文データの全文字数を、携帯端末1のディスプレイ2にて1度に表示可能な文字数、またはメモリ9に記憶可能な文字数（この場合、一般に、携帯端末1のディスプレイ2にて1度に表示可能な文字数の数倍の容量を有する）にて分割する（ステップS2）。

#### 【0023】

そして、ゲートウェイサーバー7は、これら分割文字数を1単位（ページ）とし、電子メール本文データの最初のページを携帯端末1に対して出力する（ステップS3）。これにより、携帯端末1のディスプレイ2には、図4（a）に示す如くに電子メール本文データの最初のページが表示されることになる。

## 【0024】

次に、ユーザーは、ディスプレイ2に表示された1ページ分の電子メールを読み終えると、ディスプレイ2に表示された次頁または前頁（この場合次頁）の文字（アイコン等）を選択して、ページスクロール要求をゲートウェイサーバー7に対して出力する（ステップS4）。ページスクロール要求を受けたゲートウェイサーバー7は、携帯端末1からの要求に応じてページのスクロール（電子メール本文データの前頁または次頁の携帯端末1への出力）を行う（ステップS5）。すなわち、図4（a）に示す如くの状態（表示画面）にて、次頁の文字（アイコン等）が選択されると、図4（b）に示す如くの状態（表示画面）となり、さらに、図4（b）に示す如くの状態（表示画面）にて、次頁の文字（アイコン等）が選択されると、図4（c）に示す如くの状態（表示画面）となる。また、図4（b）に示す如くの状態（表示画面）にて、前頁の文字（アイコン等）が選択されると、図4（a）に示す如くの状態（表示画面）となる。

## 【0025】

ユーザーが電子メール本文データ全てのページを読み終えるか、あるいは途中でキャンセルした場合、すなわち、携帯端末1より電子メール受信終了の指示要求があると、ゲートウェイサーバー7は一連の動作を終了する（ステップS6）。

## 【0026】

なお、電子メール本文データの所定のページがディスプレイ2に表示されている際、ページ分割されて表示されている電子メールが、当該電子メール本文データの最初のページの場合、図4（a）に示す如くに、ディスプレイ2には次頁の文字（アイコン等）のみが表示され、最後のページの場合、図4（c）に示す如くに、ディスプレイ2には前頁の文字（アイコン等）のみが表示され、それ以外のページの場合、図4（b）に示す如くに、ディスプレイ2には次頁及び前頁の文字（アイコン等）が表示されることになる。

## 【0027】

また、以上の説明では、電子メール本文データの全文字数を、携帯端末1のディスプレイ2にて1度に表示可能な文字数にて分割した場合を例に説明したが、

電子メール本文データの全文字数を、メモリ9に記憶可能な文字数にて分割した場合には、図4（a）乃至図4（c）に表示された各ページの全ての情報を見るためには、携帯端末1のディスプレイ2の表示画面をスクロールさせる必要がある。

## 【0028】

以上のように、本発明の携帯端末におけるテキストデータの受信方法によれば、携帯端末の受信データ容量制限により閲覧できないテキストファイルを文字数無制限として閲覧することを可能とするために、ゲートウェイサーバーを経由させるようにした。これにより、テキストデータ作成側にて、特にデータサイズを気にすることなくテキストデータを作成することが可能となり、携帯端末向けコンテンツ作成者にとって作業効率の向上を図る事ができる。また、どんなに長いテキストデータでも、ゲートウェイサーバーを経由させることにより、該ゲートウェイサーバーにてページング処理を行わせる事で、全てのテキストデータを閲覧することができる。

## 【0029】

次に、図5乃至図7を参照して、図1で示したシステムにおける携帯端末におけるテキストデータの送信方法について説明を行う。図5は携帯端末におけるテキストデータの送信処理の手順を示したフローチャートであり、図6及び図7は図1で示したシステムにおけるテキストデータの送信処理時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

## 【0030】

ユーザーは、先ず、携帯端末1を操作し、ディスプレイ2に、図6（a）に示す如くのメール作成画面を表示する（ステップT1）。そして、携帯端末上のWEBブラウザが備える空の状態（未入力）のテキスト入力BOXに、所定の方法にて電子メール本文データを書き込む（ステップT2）。電子メール本文データの書き込みが進行し、当該テキスト入力BOXの入力文字数制限値に達した場合、ディスプレイ2に表示された「本文続きを書く」の文字（アイコン等）を選択して、次の空の状態（未入力）のテキスト入力BOXに電子メール本文データを図6（b）に示す如くに連続して書き込む（ステップT3、T10、T2）。

## 【0031】

ここで、全ての電子メール本文データの書き込みが終了した際に、書き込み文字数が、当該携帯端末から送信可能な文字数の制限範囲内であった場合、すなわち図6（c）に示す如くの状態以前で入力が終了し、ディスプレイ2に表示された「送信」の文字（アイコン等）が選択された場合、携帯端末上のWEBブラウザは、古い文章が入力されているテキスト入力ボックスから順次に、該テキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、ゲートウェイサーバー7に出力する（ステップT3, T10, T7）。

## 【0032】

そして、書き込まれた全てのテキスト入力ボックスから文章が読み出されゲートウェイサーバー7に出力されると（ステップT8）、ゲートウェイサーバー7は、テキスト入力ボックスから順次に読み出された文章を、古い文章から順に並べ、一つながりの電子メール本文データとして、POPサーバー8に対して出力する（ステップT9）。

## 【0033】

一方、電子メール本文データの書き込み中に、書き込み文字数が、当該携帯端末から送信可能な文字数の制限範囲を超えてしまった場合、すなわち図7（a）に示す如くの状態を超えて書き込みが継続して行われた場合には、図7（b）に示す如くに、携帯端末上のWEBブラウザは、最も古い文章が入力されているテキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、ゲートウェイサーバー7に出力し（ステップT3, T4）、継続して書き込まれた文章を、前記文章が読み出されて空の状態（未入力）となったテキスト入力ボックスに書き込む（ステップT5）。以降、電子メール本文データの書き込みが終了するまで、図7（c）に示す如くに、上記処理（ステップT4→T5→T6→T4）の処理が繰り返し行われる。

## 【0034】

その後、全ての電子メール本文データの書き込みが終了すると、ディスプレイ2に表示された「送信」の文字（アイコン等）が選択された場合、携帯端末上のWEBブラウザは、古い文章が入力されているテキスト入力ボックスから順次に

、該テキスト入力ボックスに書き込まれている文章を読み出して、ゲートウェイサーバー7に出力する（ステップT6，T7）。

#### 【0035】

そして、書き込まれた全てのテキスト入力ボックスから文章が読み出されゲートウェイサーバー7に出力され、全てのテキスト入力BOXが空になると（ステップT8）、ゲートウェイサーバー7は、テキスト入力ボックスから順次に読み出された文章を、古い文章から順に並べ、一つながりの電子メール本文データとして、POPサーバー8に対して出力する（ステップT9）。尚、この際、すなわち、ステップT3からステップT6の処理が行われた場合には、各テキスト入力ボックスから該テキスト入力ボックス単位で読み出され、ゲートウェイサーバー7に出力された文章の終わりには制御コードが付加される。この制御コードは、ゲートウェイサーバー7にて、テキスト入力ボックスから順次に読み出された文章を、古い文章から順に並べ、一つながりの電子メール本文データを再構成する際に使用されると共に、携帯端末1からゲートウェイサーバー7に送られた文章を再編集する際に使用される。

#### 【0036】

以上の如く、本発明では、図6のように本文を入力するテキスト入力BOXを「本文続きを読む」が選択された時に、次々と増やしていくことで、送信文字数を増やすことを可能としている。

#### 【0037】

また、電子メール本文データを入力するためのテキスト入力BOXを複数用意することで、WEBブラウザにおける入力文字数制限問題を解決している。すなわち、「本文続きを読む」コマンドを選択することにより、新しいテキスト入力BOXが表示され、続けて本文を入力していくことができるようになっている。

#### 【0038】

さらに、端末のデータ送信容量を超える場合には、古いテキスト入力BOXの内容を非表示・編集不可にすることで新しいテキストを入力することを可能にしている。

#### 【0039】

以上、上記本発明によれば、従来、携帯端末のメールーでは端末側の受信データの容量制限や搭載されているWEBブラウザの各種制限により、搭載されているメールーには、送信文字数についての制限があったが、本発明によって、無制限のテキストデータの入力、送信を可能としたので、一般のパソコンのメールーと比べても遜色のないメールーを携帯端末上に実現することができる。

## 【0040】

なお、上記発明において、携帯端末からインターネットを介して送受信されるデータはテキストデータであるとして説明を行ったが、CompactHTMLやHDMLやWML等にて記述された文章、あるいはイメージデータに対して適用可能であることは勿論である。

## 【0041】

また、本発明は上記した実施の形態に限定されるものではなく、特許請求の範囲に記載した技術思想の範囲内において種々の変更が可能なのはいうまでもない。

## 【0042】

## 【発明の効果】

以上説明したように、本発明による携帯端末におけるテキストデータの送受信方法によれば、ゲートウェイサーバー側でサーバーから受信したテキストデータ本文を、携帯端末にて表示可能なデータサイズに分割して携帯端末に送信するよにしたので、どんなに長い本文のテキストデータであっても、携帯端末上で閲覧することができる。

## 【0043】

また、テキストデータ本文を入力するためのテキスト入力BOXを複数用意することで、WEBブラウザにおける入力文字数制限問題を解決するようにしたので、一般のパソコンのメールーと比べても遜色のないメールー機能を携帯端末上に実現することができ、これにより、どんなに長いメールデータでも送信することができる。

## 【図面の簡単な説明】

## 【図1】

本発明の携帯端末におけるテキストデータの送受信方法を実現するためのシステム構成例を示したブロック図である。

【図2】

本発明の携帯端末におけるテキストデータの送受信方法を実現するための他のシステム構成例を示したブロック図である。

【図3】

携帯端末におけるテキストデータの受信処理の手順を示したフローチャートである。

【図4】

図1で示したシステムにおけるテキストデータの受信処理時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

【図5】

携帯端末におけるテキストデータの送信処理の手順を示したフローチャートである。

【図6】

図1で示したシステムにおけるテキストデータの送信処理時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

【図7】

図1で示したシステムにおけるテキストデータの送信処理時の携帯端末における他の画面表示の一例を示した図である。

【図8】

従来における電子メール本文データ受信時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

【図9】

従来における電子メール本文データ送信時の携帯端末における画面表示の一例を示した図である。

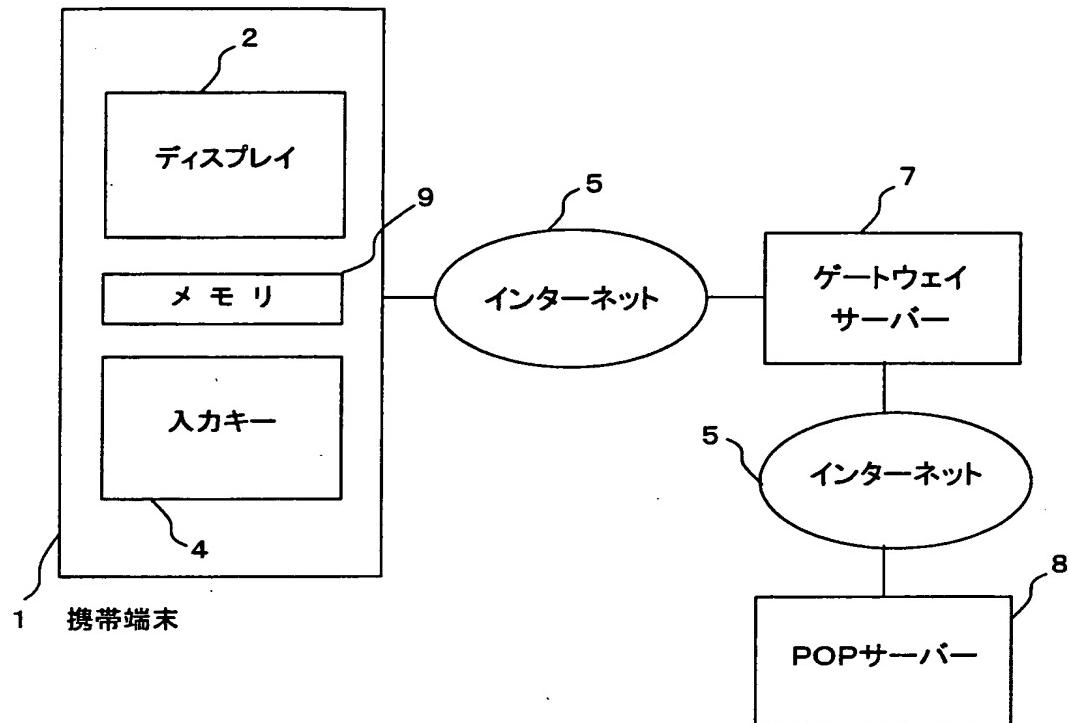
【符号の説明】

- 1 携帯端末
- 2 ディスプレイ

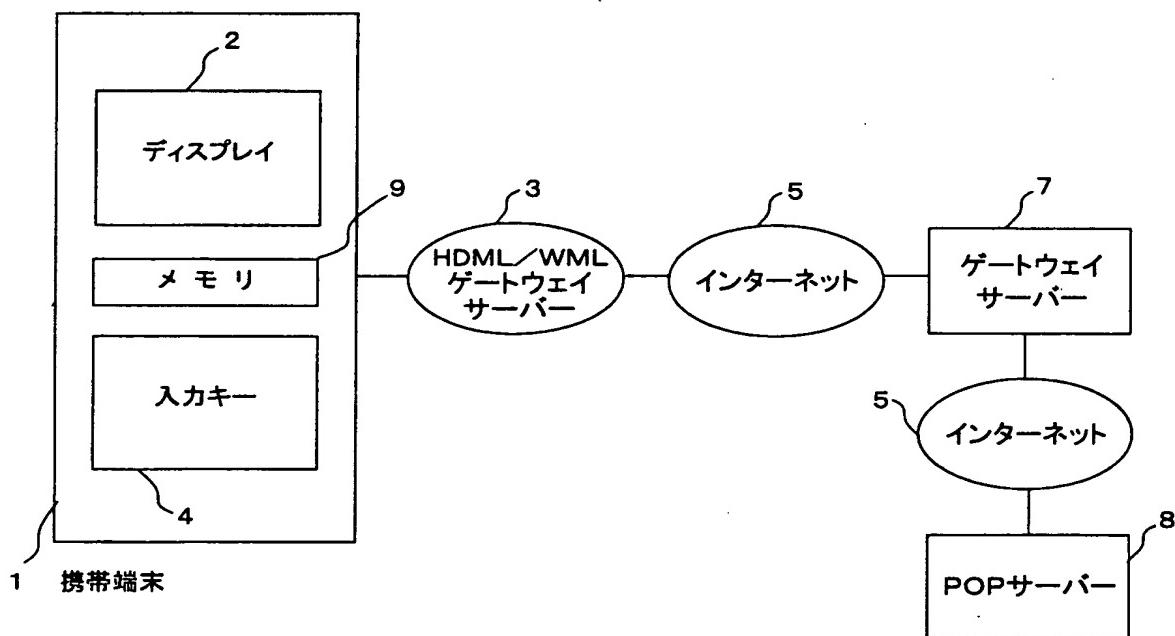
- 3 H D M L / W M L 対応ゲートウェイサーバー
- 4 入力キー
- 5 インターネット
- 7 ゲートウェイサーバー
- 8 P O P サーバー
- 9 メモリ

【書類名】 図面

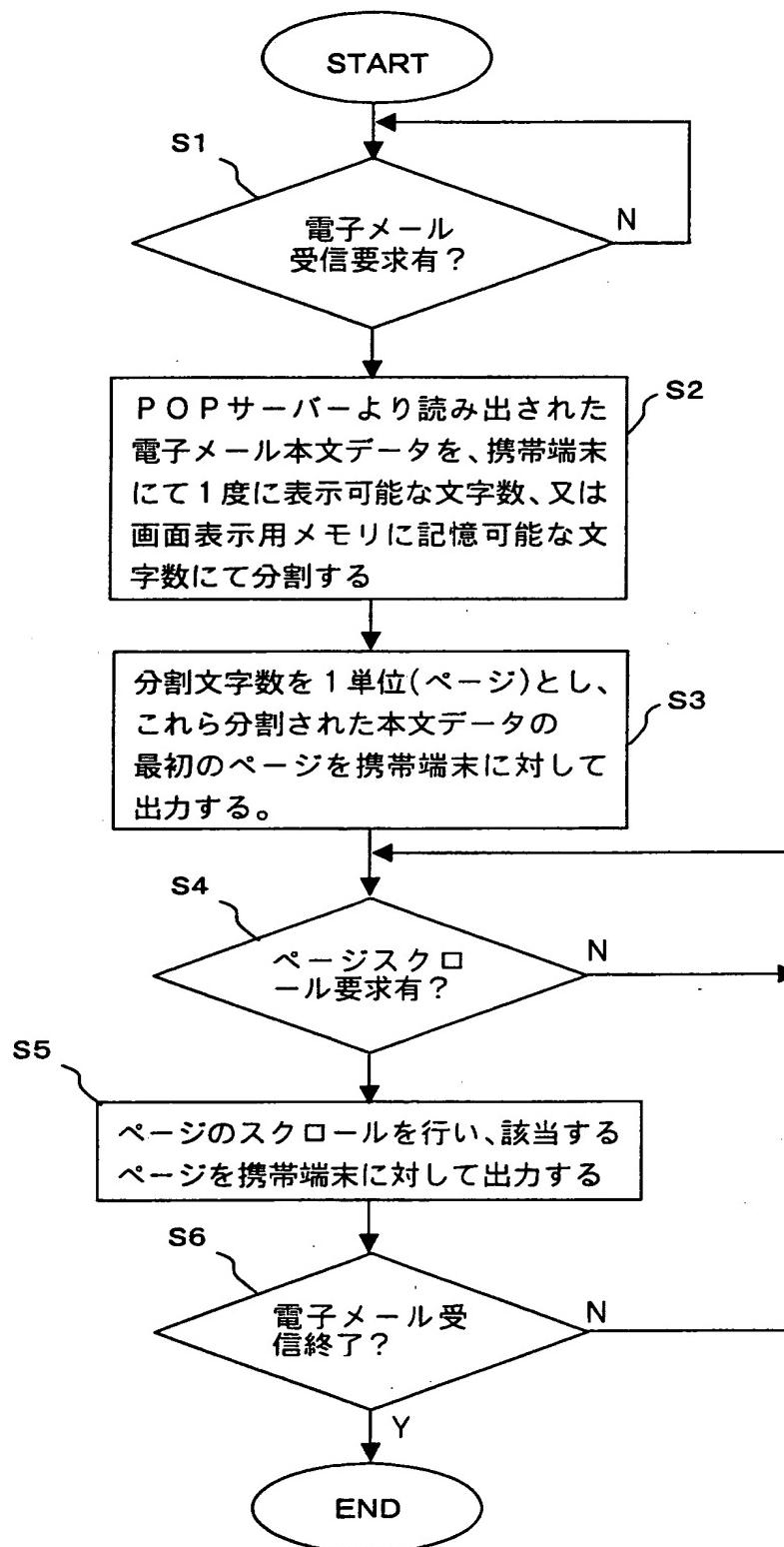
【図1】



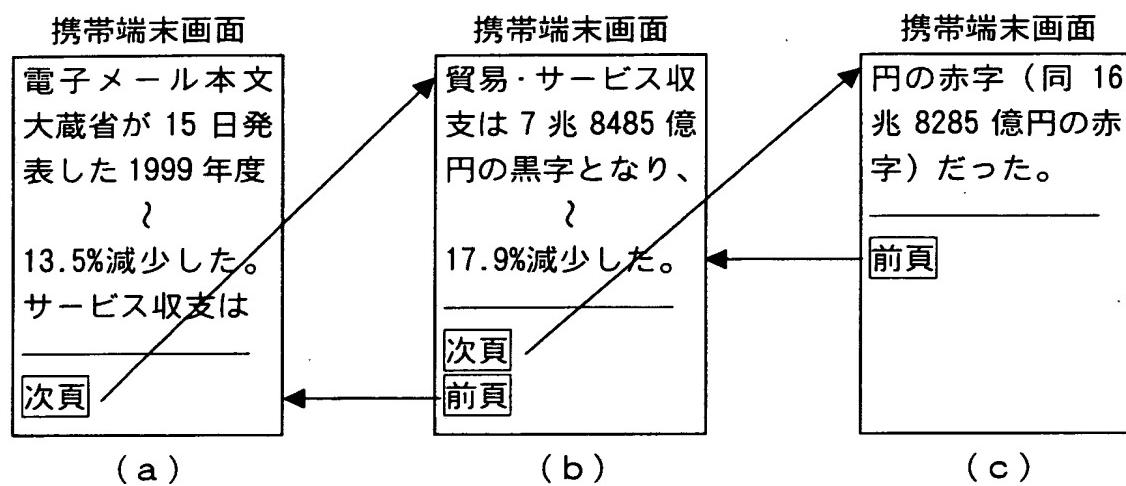
【図2】



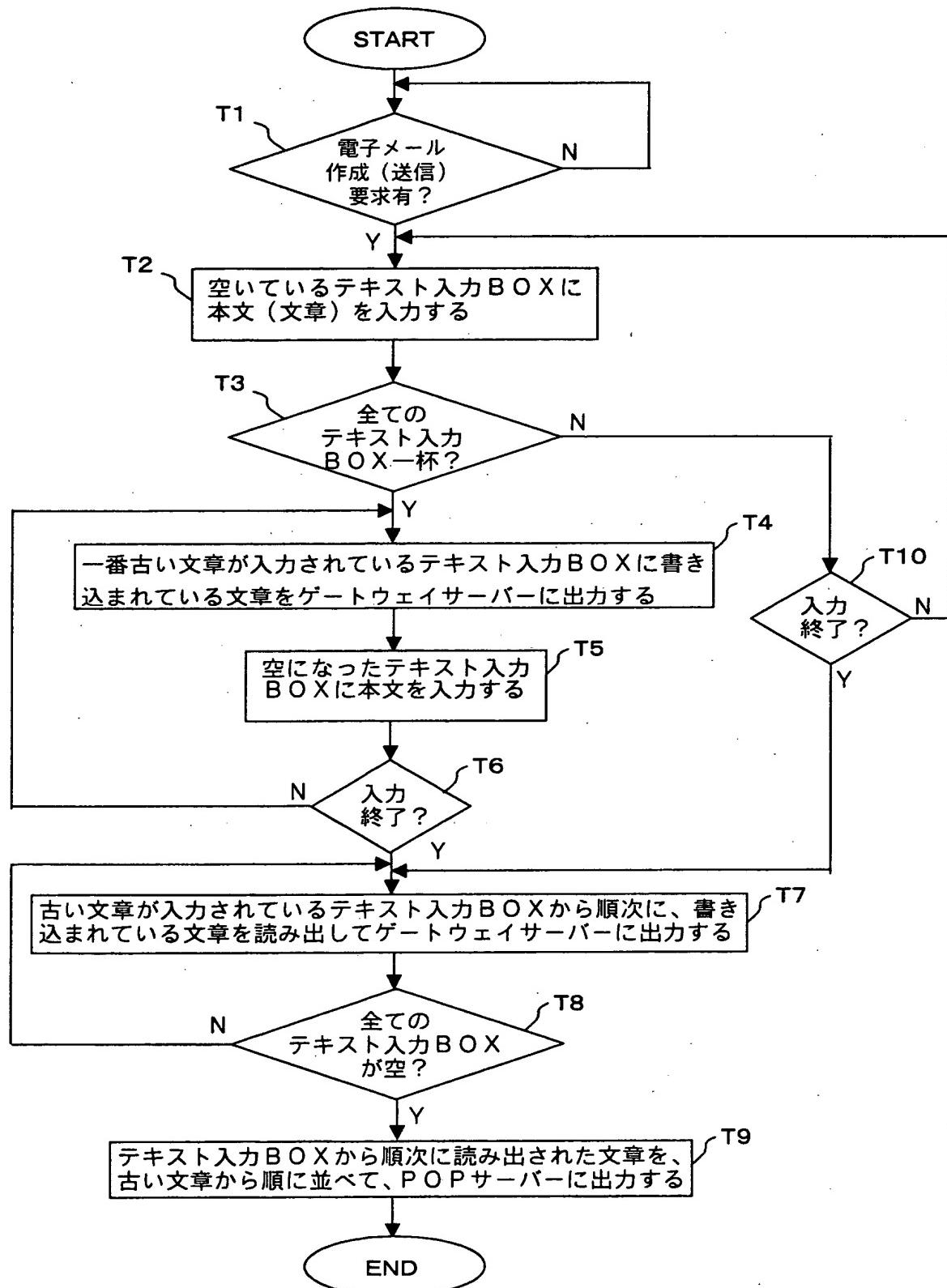
【図3】



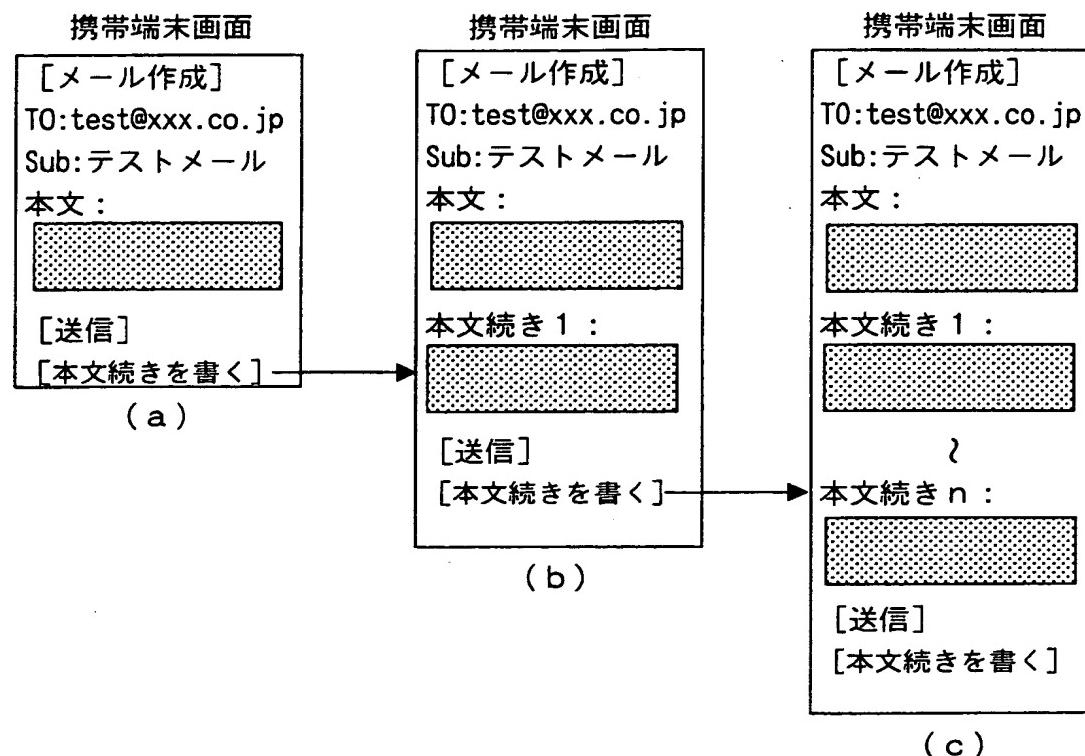
【図4】



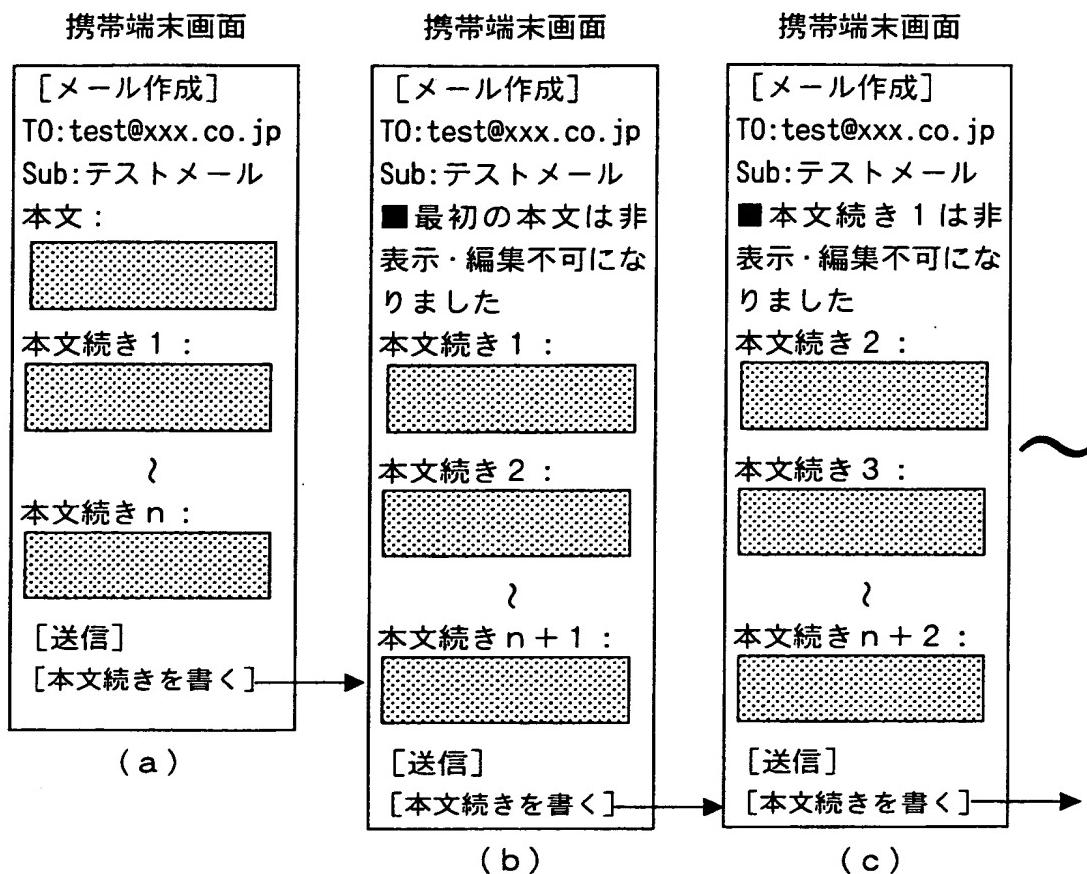
【図5】



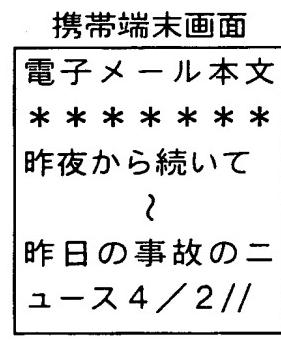
【図6】



【図7】



【図8】



長い本文の受信時

【図9】

携帯端末画面

[メール作成]
T0:test@xxx.co.jp
Sub:テストメール
本文
[REDACTED]
[送信]

長い本文の送信時

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 インターネットアクセス可能な携帯端末において、メッセージデータを文字数無制限に送受信可能とする携帯端末におけるテキストデータの送受信方法を提供する。

【解決手段】 携帯端末1とPOPサーバー8の間にゲートウェイサーバー7を経由させ、該ゲートウェイサーバー7にて、長いテキストデータを携帯端末で表示できるサイズに分割し、ページング処理をして携帯端末1に送信することで、どんなに長いテキストデータでも、全てのテキストデータを閲覧することができる。また、テキストデータ本文を入力するためのテキスト入力BOXを複数用意することで、WEBブラウザにおける入力文字数制限を解決し、これにより、どんなに長いテキストデータでも送信することができる。

【選択図】 図1

特2000-162867

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-162867
受付番号	50000676477
書類名	特許願
担当官	第七担当上席 0096
作成日	平成12年 6月 1日

<認定情報・付加情報>

【提出日】 平成12年 5月31日

次頁無

出願人履歴情報

識別番号 [500126833]

1. 変更年月日 2000年 3月17日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都八王子市南大沢2丁目27番  
氏 名 ネットビレッジ株式会社

Reference No. NV0002

Dispatch No.: 025371

Dispatch Date: February 3, 2004

(Partial Translation)

**Decision of Rejection**

Patent Application No.	Patent application No. 2000-162867
Drafting Date	January 23, 2004
Examiner of JPO	Takao TSUHATA 3051 5R00
Title of the Invention	Method for transmitting/receiving text data in portable terminal
Applicant(s)	Net Village Co., Ltd.
Representatives of the Applicant(s)	Kenji KURODA and another

This application should be rejected for the reason(s) mentioned in the notice of reason(s) for rejection dated August 27, 2003.

The argument(s) and amendment(s) have been examined, but no basis sufficient to overthrow the previously given reason(s) for rejection has been found.

**Remarks:**

**(With regard to Claims 1 and 2)**

In comparison, the invention described in the cited document 1 indicated in the said notice of reason(s) for rejection (hereinafter, referred to as "document 1") and the invention of claims 1 and 2 of the subject application are different in that an e-mail is divided by a mail server in the invention described in the document 1 while an e-mail is divided by a gateway server (i.e. a relay server) which is installed between a mail server and a terminal in the invention of claims 1 and 2 of the subject application. However, it is well-known configuration in which contents are divided by a relay server installed between a server and a terminal (please refer to Japanese Patent Laid-Open Nos. H11-175426 and H11-134273, for example). The effects the applicant insists in the arguments can be nothing but produced by such well-known configuration, and a person skilled in the art could have easily made the inventions of claims 1 and 2 of the subject application, based on the invention described in the document 1.

**(With regard to Claim 3)**

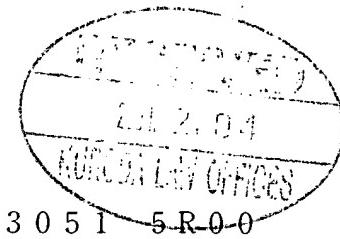
Displaying data by Web browser is just a matter of design variation.

Therefore, the invention(s) of the claims 1-3 of the subject application should not be granted a patent under the provision of Patent Law Section 29(2) since it could have easily been made by persons skilled in the art, on the basis of the invention(s) described in the document 1.

(The rest is omitted from translation, as the reason of rejection is not based on the prior art.)

## 拒絶査定

特許出願の番号 特願2000-162867  
 起案日 平成16年 1月23日  
 特許庁審査官 津幡 貴生  
 発明の名称 携帯端末におけるテキストデータの送受信方法  
 特許出願人 ネットビレッジ株式会社  
 代理人 黒田 健二 (外 1名)



この出願については、平成15年 8月27日付け拒絶理由通知書に記載した理由によって、拒絶をすべきものである。

なお、意見書及び手続補正書の内容を検討したが、拒絶理由を覆すに足りる根拠が見いだせない。

## 備考

## (請求項1, 2について)

本願の請求項1, 2に係る発明と上記拒絶理由通知書において提示した引用文献1(以下、「文献1」とする)に記載された発明とを比較すると、文献1に記載された発明では、メールサーバがメールの分割を行っているのに対して、本願の請求項1, 2に係る発明では、メールサーバと端末との間に設けられたゲートウェイサーバ(中継サーバ)が行っている点で相違するが、サーバと端末との間に設けられた中継サーバにおいてコンテンツの分割を行う構成は周知であり(例えば、特開平11-175426号公報、特開平11-134273号公報参照)、出願人が意見書で主張する効果も、当該周知の構成が有するものに過ぎないから、文献1に記載された発明を基に、本願の請求項1, 2に係る発明をすることは、当業者であれば容易にし得たことである。

## (請求項3について)

データの表示をWEBブラウザにより行うことは、単なる設計的事項である。

したがって、本願の請求項1~3に係る発明は、文献1に記載された発明に基づいて当業者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許をうけることができない。

なお、本願の請求項4~7には、「携帯端末を操作するユーザーが複数のテキスト入力ボックスに順次にテキストデータを書き込み可能とする」「最も古い文章が入力されているテキスト入力ボックスから順次に、テキスト入力ボックスに

整理番号 N V 0 0 2

発送番号 0 2 5 3 7 1 2/E

発送日 平成16年 2月 3日

書き込まれたテキストのデータをゲートウェイサーバーに出力する」「携帯端末から順次出力されたテキストデータを、古い文章から順に並べて一つながりのテキストデータにする」という記載があるが、当該記載がどのような構成を意味するのかが不明である（請求項中には、複数のテキスト入力ボックスを配置する、という構成が示されているのみであり、それらの順序関係を判別するための構成が示されていない）。また、「順次に書き込み可能とする」という記載が意味するところが不明確である（「順次に書き込む」ことを可能とする意味なのか、順次に「書き込み可能」とする意味なのか、不明である）。

なお、審判請求時に補正を行う際には、補正で付加できる事項は、この出願の出願当初の明細書又は図面に記載した事項のほか、出願当初の明細書又は図面の記載から自明な事項に限られ、且つ特許請求の範囲の限定的減縮、不明瞭な記載の釈明又は誤記の訂正を目的とする補正に限られることに注意し、審判請求の理由で、各補正事項について補正が適法なものである理由を、根拠となる出願当初の明細書の記載箇所を明確に示したうえで主張されたい。審判請求の理由の記載は、無効審判における訂正請求書の記載形式を参考にされたい。また、明細書を補正した場合は、補正により記載を変更した個所に下線を引くこと（特許法施行規則様式第13備考6）。

上記はファイルに記録されている事項と相違ないことを認証する。

認証日 平成16年 2月 3日 経済産業事務官 栗田 健志



Reference No. NV0002

Dispatch No.: 306033

Dispatch Date: September 2, 2003

(Partial Translation)

### Notice of Reason(s) for Rejection

Patent Application No.	Patent application No. 2000-162867
Drafting Date	August 27, 2003
Examiner of JPO	Daisuke TERATANI 3051 5R00
Representatives of the Applicant(s)	Kenji KURODA and another
Applied Provision(s)	Patent Law Sections 29(2)

This application should be rejected for the reason(s) mentioned below. If the applicant has any argument against the reason(s), such argument should be submitted within 60 days from the date on which this notice was dispatched.

#### Reasons

The invention(s) in the claim(s) listed below of the subject application should not be granted a patent under the provision of Patent Law Section 29(2) since it could have easily been made by persons who have common knowledge in the technical field to which the invention(s) pertains, on the basis of the invention(s) described in the publication(s) listed below which was/were distributed in Japan or foreign countries or the invention(s) made available to the public through electric telecommunication lines prior to the filing of the subject application.

#### Note

Claims 1 and 2

Cited Document 1

Remarks:

In comparison, the invention described in the cited document 1 and the invention in claims 1 and 2 of the subject application are different in that an e-mail is divided by a mail server in the invention described in the cited document 1 while an e-mail is divided by a gateway server in the invention in claims 1 and 2 of the subject application. However, it is well-known technology to have a plurality of processing a certain server performs partially taken over by another server. Accordingly, a person skilled in the art could have easily applied the aforementioned well-known technology to the invention described in the cited document 1.

Claims 3 and 4

Cited Document 2

Remarks:

In comparison, the invention described in the cited document 2 and the invention in claims 3 and 4 of the subject application are different in that a mail server receives divided data and converted the received data into a file format in the invention described in the cited document 2 while the aforementioned processing is performed by a gateway server in the invention in claims 3 and 4 of the subject application. Further, in the invention of the subject application, data for transmission is prepared by using a plurality of text input boxes. However, it is well-known technology to have a plurality of processing a certain server performs partially taken over by another server. In addition, using a text input box for preparing data for transmission is also a well-known technology. Accordingly, a person skilled in the art could have easily applied the aforementioned well-known technology to the invention described in the cited document 2.

**Claim 5**

Cited Documents 1 and 2

Remarks:

A person skilled in the art could have easily combined the inventions described in the cited documents 1 and 2.

The list of cited documents etc.

1. JP9-51353A
  2. JP10-51491A
- 

Record of the result of prior art search

- Technical field(s) to be searched      Int. Cl(7) G06F13/00 and H04L 12/58
- Prior art document(s)
  - JP11-205458A
  - JP11-175426A

This record of the result of prior art search is not a component(s) of the reason(s) for rejection.

**拒絶理由通知書**

特許出願の番号 特願2000-162867  
 起案日 平成15年 8月27日  
 特許庁審査官 寺谷 大亮  
 特許出願人代理人 黒田 健二 (外 1名) 様  
 適用条文 第29条第2項



この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

**理 由**

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

請求項：1， 2

引用文献：1

備考：

本願の上記請求項に係る発明と引用文献1に記載された発明とを比較すると、引用文献1に記載された発明では、メールサーバーがメールの分割を行っているのに対して、本願の上記請求項に係る発明では、ゲートウェイサーバーが行っている点で相違するが、一のサーバーで行っている複数の処理の一部を、異なるサーバーで行うようにすることは、周知の技術であり、引用文献1に記載の発明において上記周知の技術を適用することは、当業者が適宜なし得たことである。

請求項：3， 4

引用文献：2

備考：

本願の上記請求項に係る発明と引用文献2に記載された発明とを比較すると、引用文献2に記載された発明では、メールサーバーが分割されたデータを受信して、ファイル形式にしているのに対して、本願の上記請求項ではゲートウェイサ

一バーが上記の処理を行っている点、および、本願発明では、複数のテキスト入力ボックスを用いて、送信データの作成を行っている点で相違する。しかし、一のサーバーで行っている複数の処理の一部を、異なるサーバーで行うようすることとは、周知の技術であり、引用文献2に記載の発明において上記周知の技術を適用することは、当業者が適宜なし得たことである。また、送信データの作成にテキスト入力ボックスを用いることは、周知の技術であり、引用文献2に記載の発明において上記周知の技術を適用することは、当業者が適宜なし得たことである。

請求項：5

引用文献：1， 2

備考：

引用文献1， 2に記載された発明を単に組み合わせることは、当業者が容易になし得たことである。

-----  
現時点ではこの拒絶理由通知書中で指摘した以外の拒絶の理由を発見しない。  
拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

#### 引用文献等一覧

1. 特開平9-51353号公報
2. 特開平10-51491号公報

#### 先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野

I P C 第7版

G 06 F 13/00

H 04 L 12/58

・先行技術文献

特開平11-205458号公報

特開平11-175426号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

整理番号 NV0002

発送番号 306033 3/E  
発送日 平成15年 9月 2日

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ、または面接のご希望がございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第四部 インターフェイス(情報転送) 須藤竜也  
TEL. 03(3581)1101 内線3565 FAX. 03(3580)6907